

いちばん、人を考える会社になる。

第一生命



2011年3月期 第2四半期決算報告

2010年11月12日
第一生命保険株式会社

第一生命

決算のポイント

- 中核事業の営業指標の改善が続く。主力商品の販売が好調で、第一生命単体の新契約高は前年同期比で10.5%増加。解約失効高は同29.0%減少
- 第一生命単体の保険料等収入の増加、ヘッジ目的の金融派生商品に係る収益が経常収益に寄与。上記契約業績の改善に加え事業費削減も進み、第2四半期業績は期初予想を大幅に上回った
- リスク性資産の圧縮が進み、ソルベンシー・マージン比率も上昇するなど財務健全性の強化に向けた取組みが前進。資本再構築により新ソルベンシー・マージン規制にも対応

第一生命

連結主要業績

(億円)

< 参考 >

	10/3期 2Q累計	11/3期 2Q累計	増減率
経常収益	27,483	22,626	18%
第一生命単体	21,425	20,943	2%
経常利益	1,346	1,010	25%
第一生命単体	1,358	1,062	22%
中間純利益 ⁽¹⁾⁽²⁾	505	294	42%
第一生命単体	518	341	34%

5/14発表 上期予想	達成率	通期予想	進捗率
21,030	108%	43,260	52%
19,310	108%	39,720	53%
740	137%	1,950	52%
810	131%	2,090	51%
110	268%	500	59%
170	201%	620	55%

- (1) 前年同期との比較を可能にするため、10/3期2Q累計については、11/3期2Q累計と同様に契約者配当準備金繰入額を計上したと仮定し、10/3期に計上した契約者配当引当金繰入額925億円に1/2を乗じた金額を、中間純剰余より控除しています。
- (2) 第一生命は10/3期2Qにおいて相互会社でありましたが、中間純剰余に代えて中間純利益と記載しています。

連結損益計算書・連結貸借対照表(要約)

連結損益計算書(要約)⁽¹⁾

(億円)

	10/3期 2Q累計	11/3期 2Q累計	増減
経常収益	27,483	22,626	4,856
保険料等収入	19,499	16,651	2,847
資産運用収益	6,534	4,580	1,953
うち利息・配当金等収入	3,460	3,382	78
うち有価証券売却益	1,182	1,017	165
うち金融派生商品収益	56	148	+91
うち特別勘定資産運用益	1,791	-	1,791
その他経常収益	1,449	1,394	55
経常費用	26,137	21,615	4,521
うち保険金等支払金	12,976	12,638	338
うち責任準備金等繰入額	7,340	2,722	4,618
うち資産運用費用	1,286	2,070	+784
うち有価証券売却損	652	618	33
うち特別勘定資産運用損	-	937	+937
うち事業費	2,393	2,158	235
経常利益	1,346	1,010	335
特別損益	134	106	+28
契約者配当準備金繰入額 ⁽¹⁾	462	412	50
税金等調整前中間純利益 ⁽²⁾	749	492	256
法人税等合計	245	204	41
少数株主利益(は損失)	1	6	4
中間純利益 ⁽²⁾	505	294	211

連結貸借対照表(要約)

(億円)

	10/4始	10/9末	増減
資産の部合計	321,042	320,541	500
うち現預金・コール	4,373	3,874	498
うち買入金銭債権	2,898	3,092	+194
うち有価証券	251,473	253,835	+2,362
うち貸付金	38,349	37,652	697
うち有形固定資産	12,440	12,862	+422
うち繰延税金資産	3,395	3,506	+111
負債の部合計	311,400	311,165	235
うち保険契約準備金	292,047	294,505	+2,458
うち責任準備金	286,326	288,992	+2,665
うち退職給付引当金	4,114	4,206	+92
うち価格変動準備金	1,155	1,225	+70
純資産の部合計	9,641	9,376	265
うち株主資本合計	5,587	5,793	+206
うち評価・換算差額等合計	3,936	3,469	466
うちその他有価証券評価差額金	4,622	4,170	452
うち土地再評価差額金	635	647	11

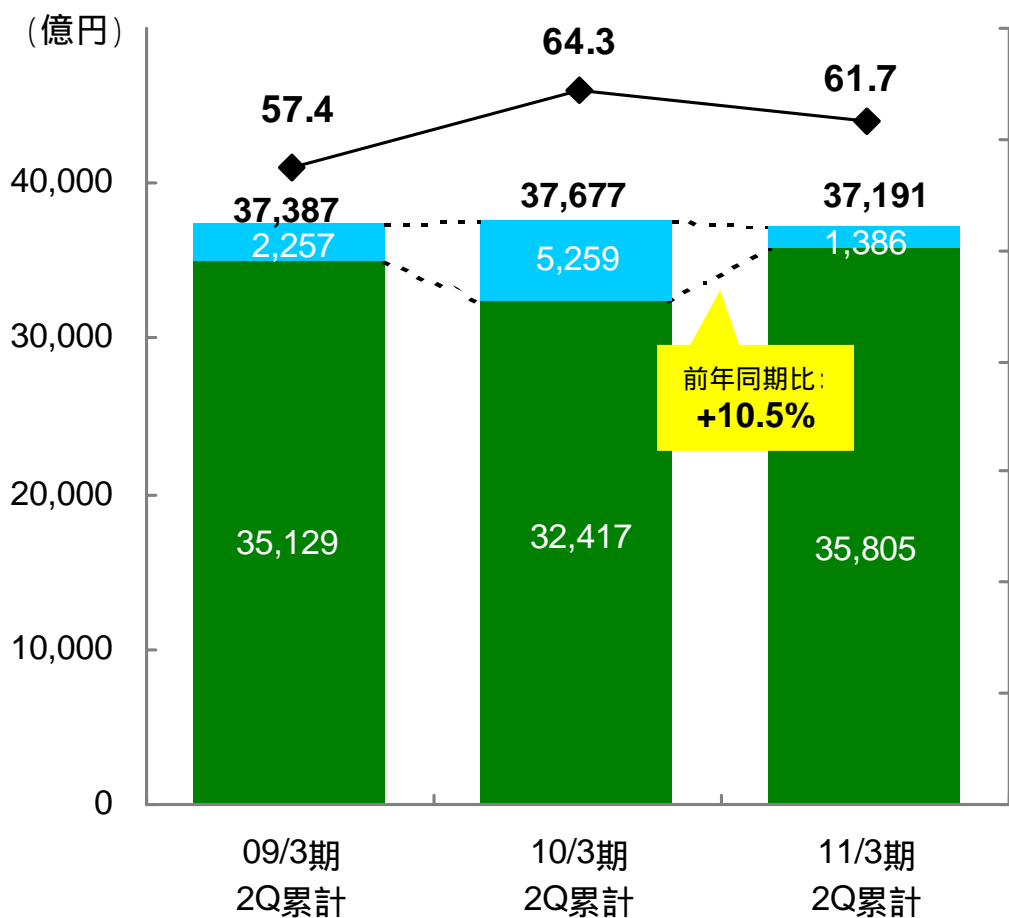
(1) 前年同期との比較を可能にするため、10/3期2Q累計については、11/3期2Q累計と同様に契約者配当準備金繰入額を計上したと仮定しています。具体的には、10/3期に計上した契約者配当引当金繰入額925億円に1/2を乗じた金額を、契約者配当準備金繰入額として記載しています。

(2) 第一生命は10/3期2Qにおいて相互会社でありましたが、中間純剰余に代えて中間純利益と記載しています。

第一生命

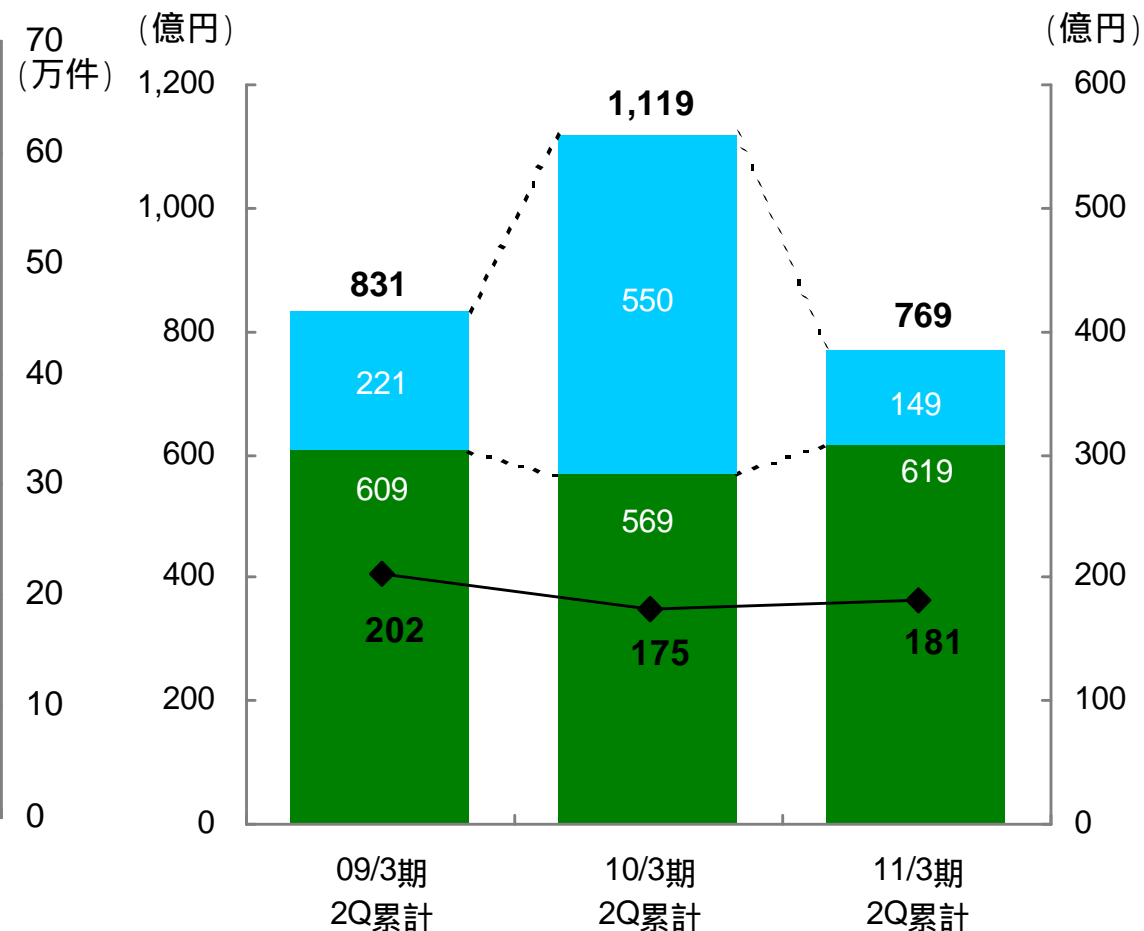
新契約動向(個人保険・個人年金保険)

新契約高⁽¹⁾



■ 第一生命 ■ 第一フロンティア生命 ◆ 件数(右軸)

新契約年換算保険料⁽¹⁾



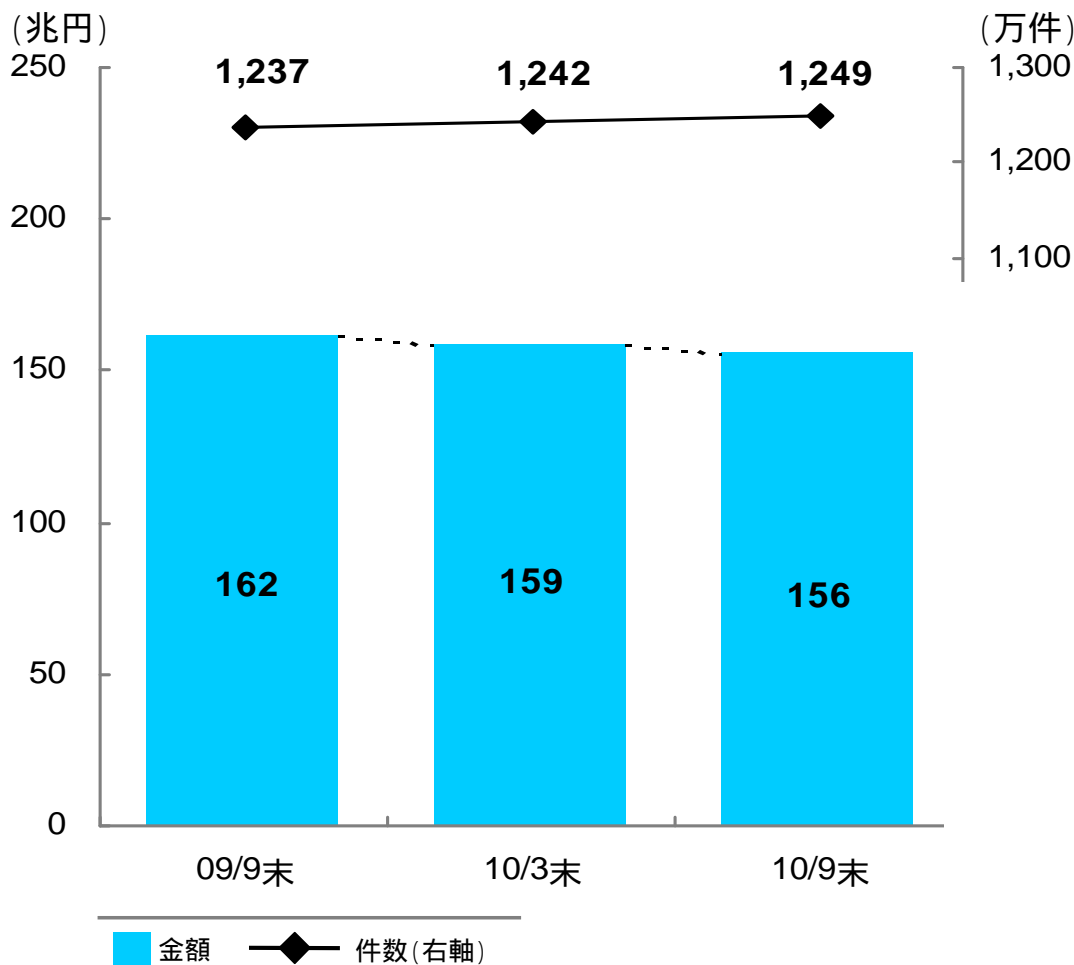
■ 第一生命 ■ 第一フロンティア生命 ◆ うち第三分野(右軸)

(1) 第一生命と第一フロンティア生命の合算ベース

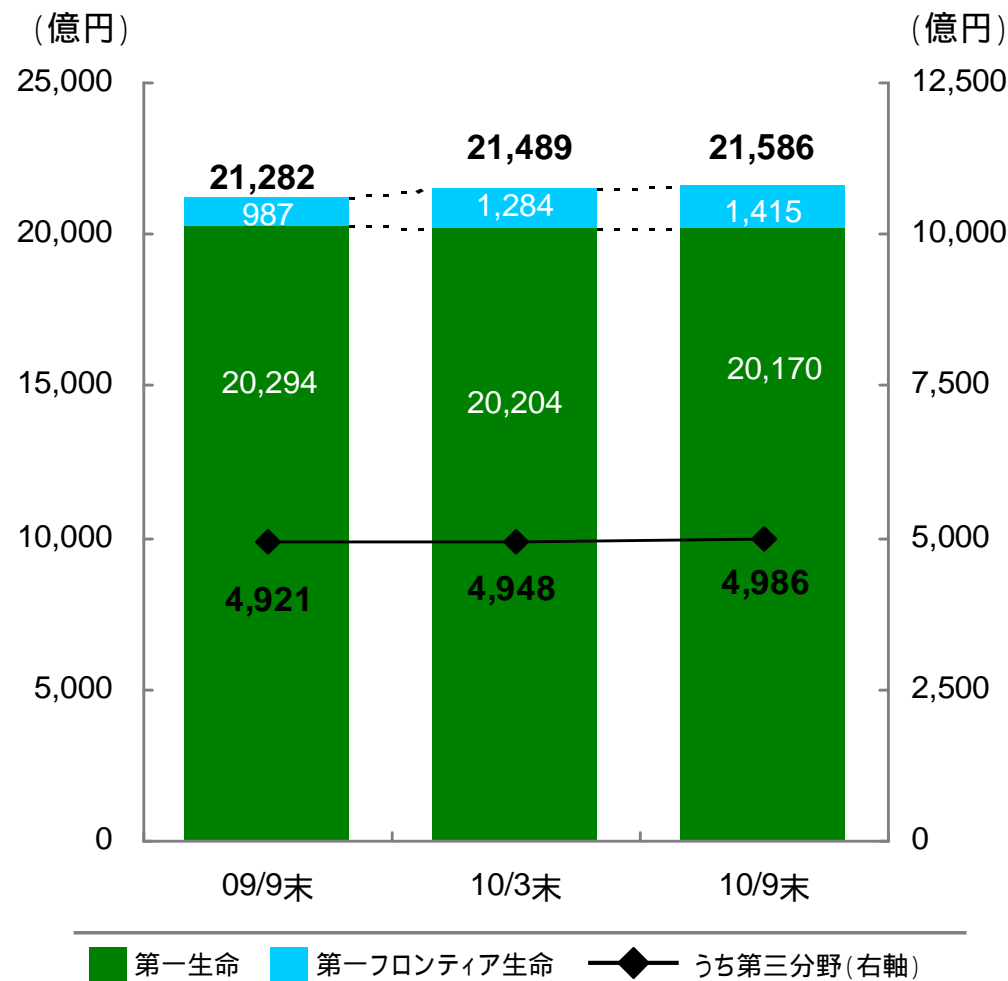
第一生命

保有契約動向(個人保険・個人年金保険)

保有契約高⁽¹⁾



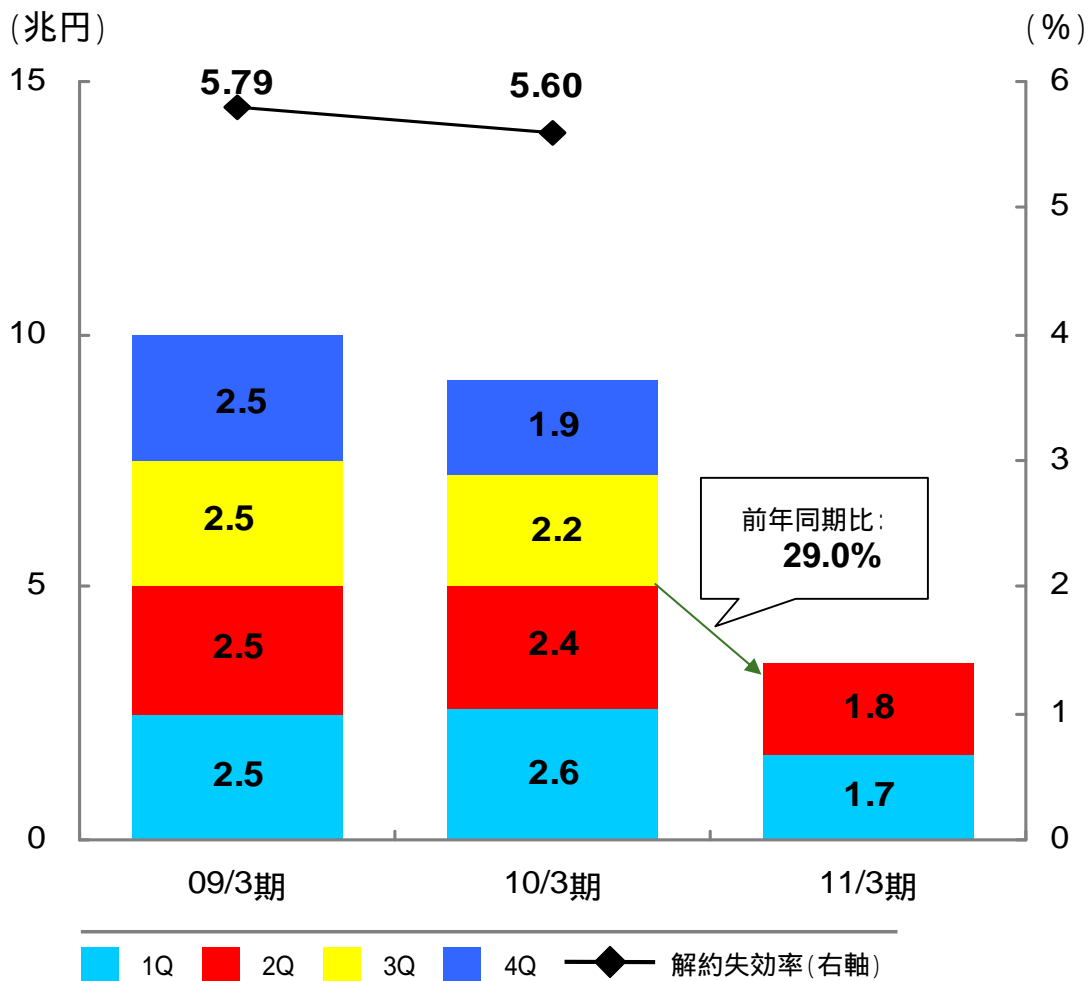
保有契約年換算保険料⁽¹⁾



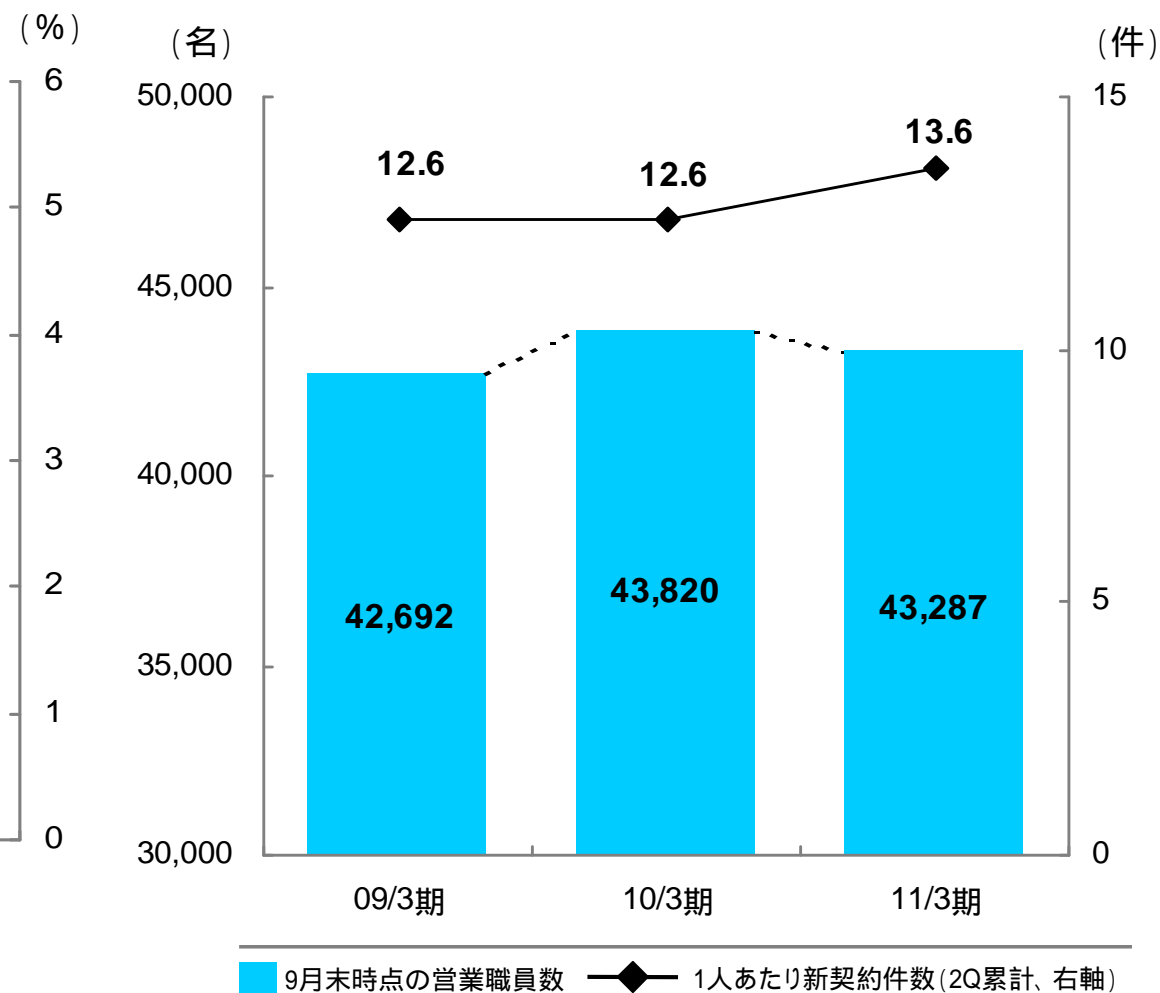
(1) 第一生命と第一フロンティア生命の合算ベース

解約失効高、営業職員数および生産性

解約失効高(個人保険・個人年金保険)⁽¹⁾



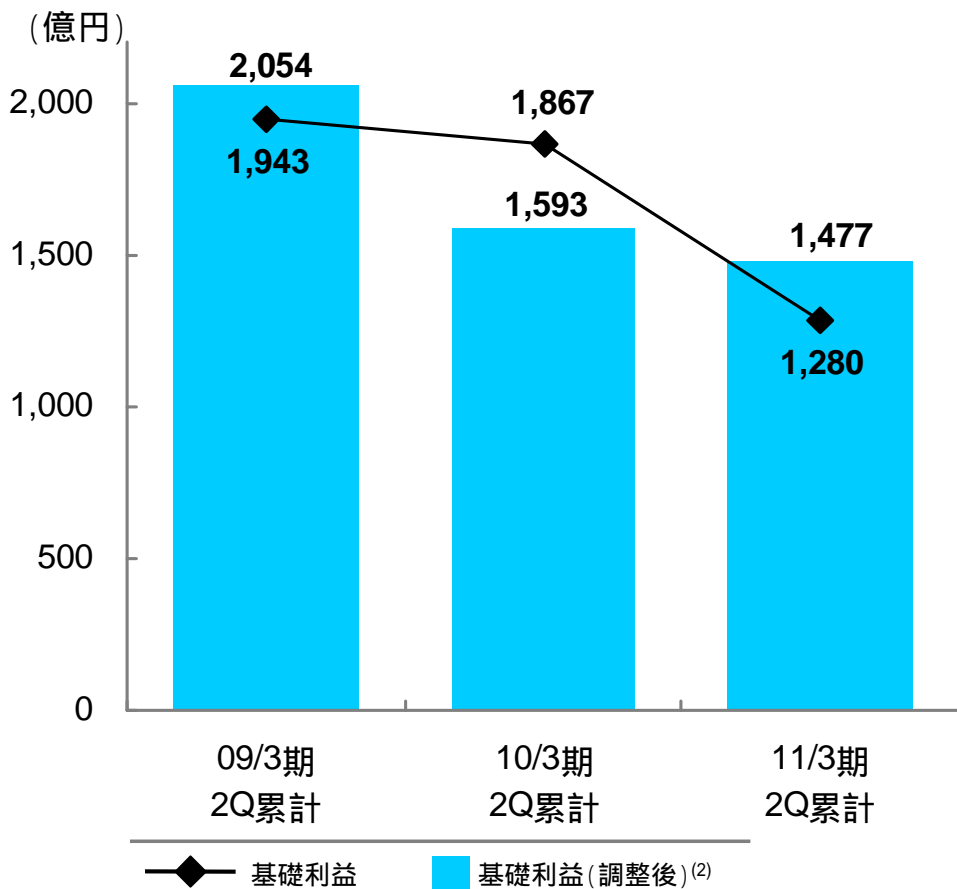
営業職員数および生産性⁽¹⁾⁽²⁾



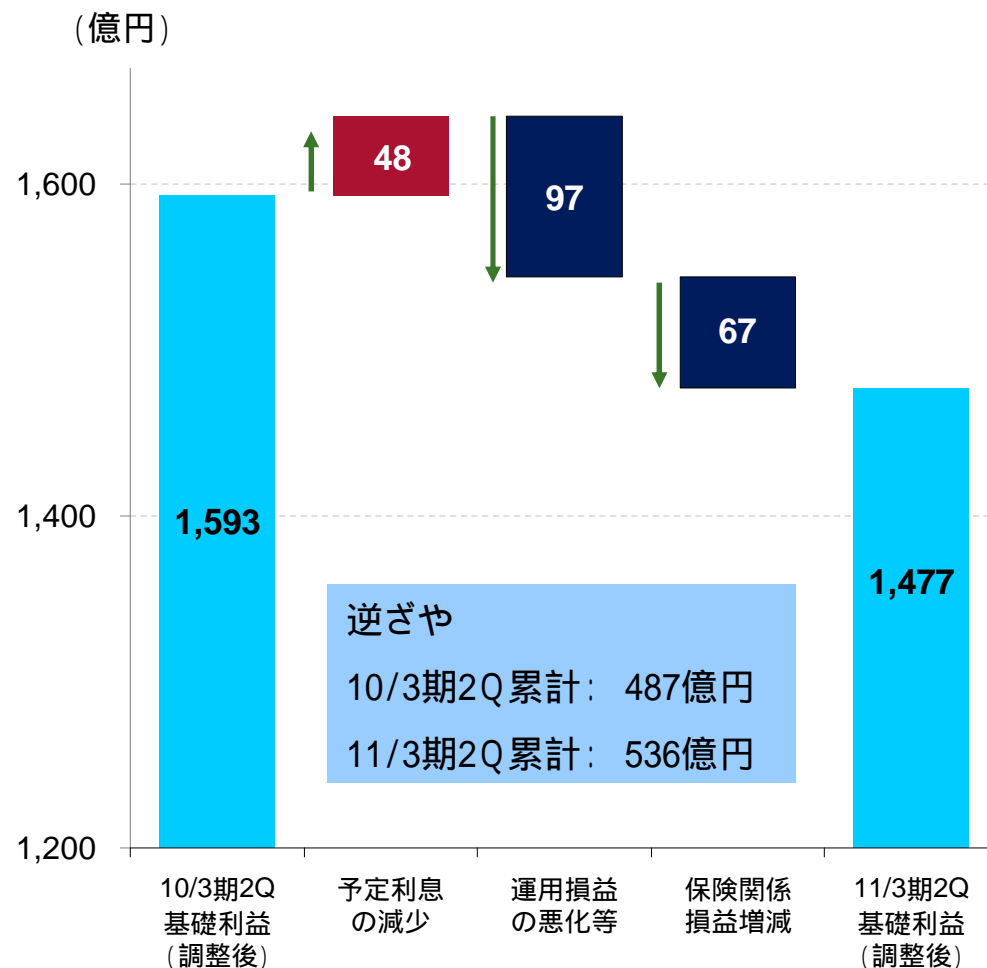
(1) 第一生命単体ベース

(2) 営業職員については、第一生命と委任契約を締結しかつ生命保険募集人登録をしている者のうち、その他補助的業務に従事する者を除いております。

基礎利益⁽¹⁾



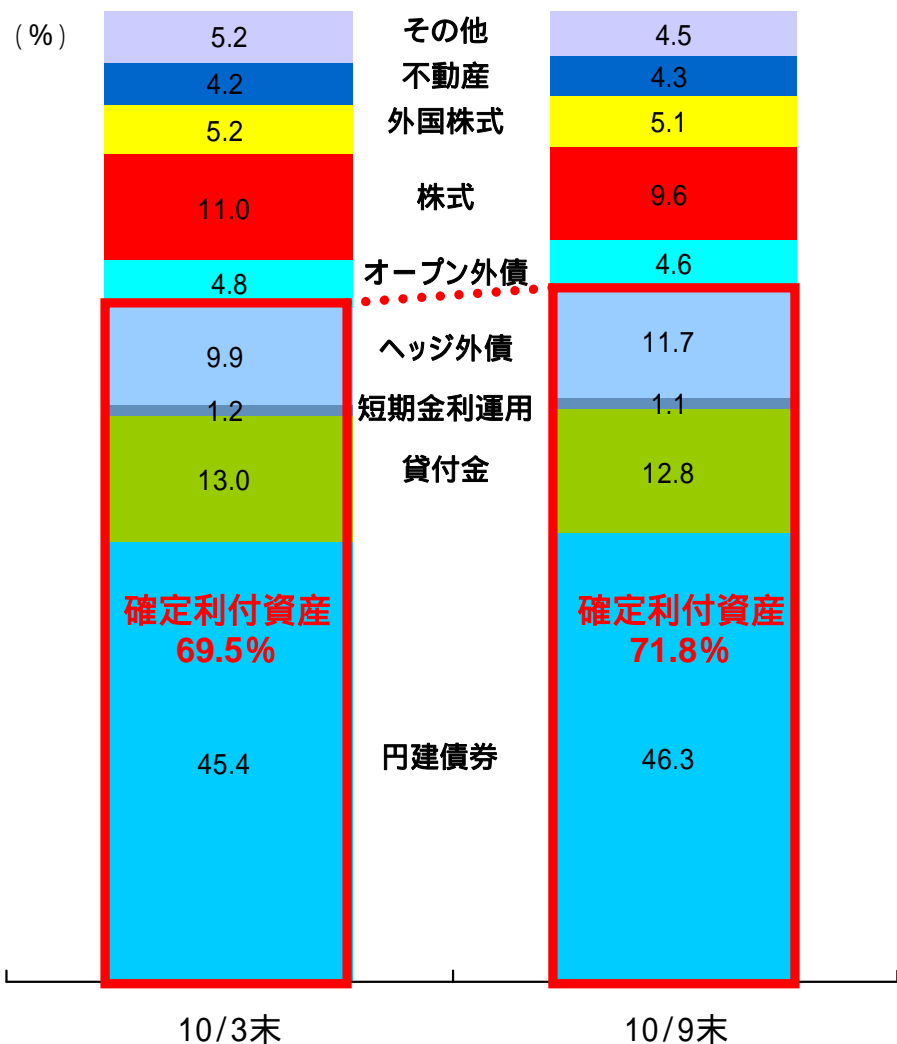
基礎利益(調整後)の変動要因⁽¹⁾⁽²⁾



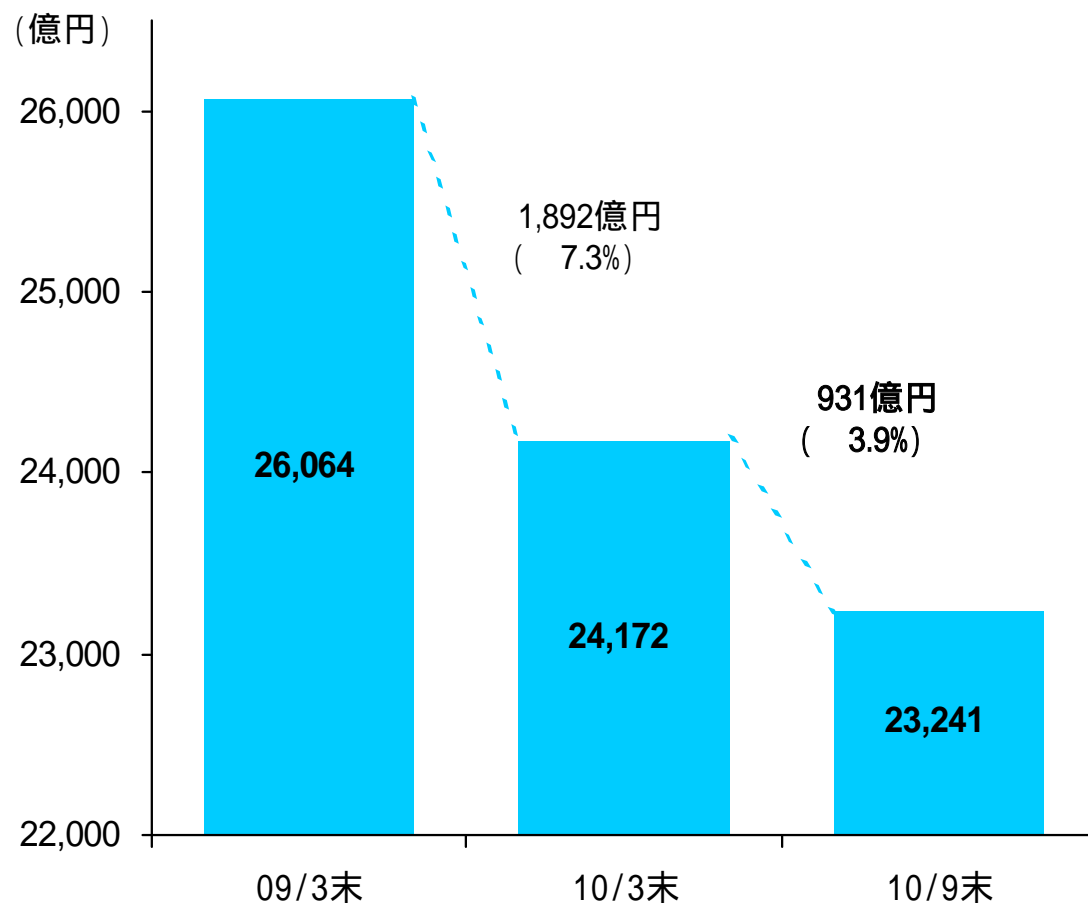
(1) 第一生命と第一フロンティア生命の合算ベース
 (2) 基礎利益(調整後) = 基礎利益 + 変額年金の最低保証リスクに係る責任準備金繰入額

一般勘定資産の状況

資産の構成 (一般勘定) (1)



国内株式の簿価 (1) (2)



(1) 第一生命単体ベース

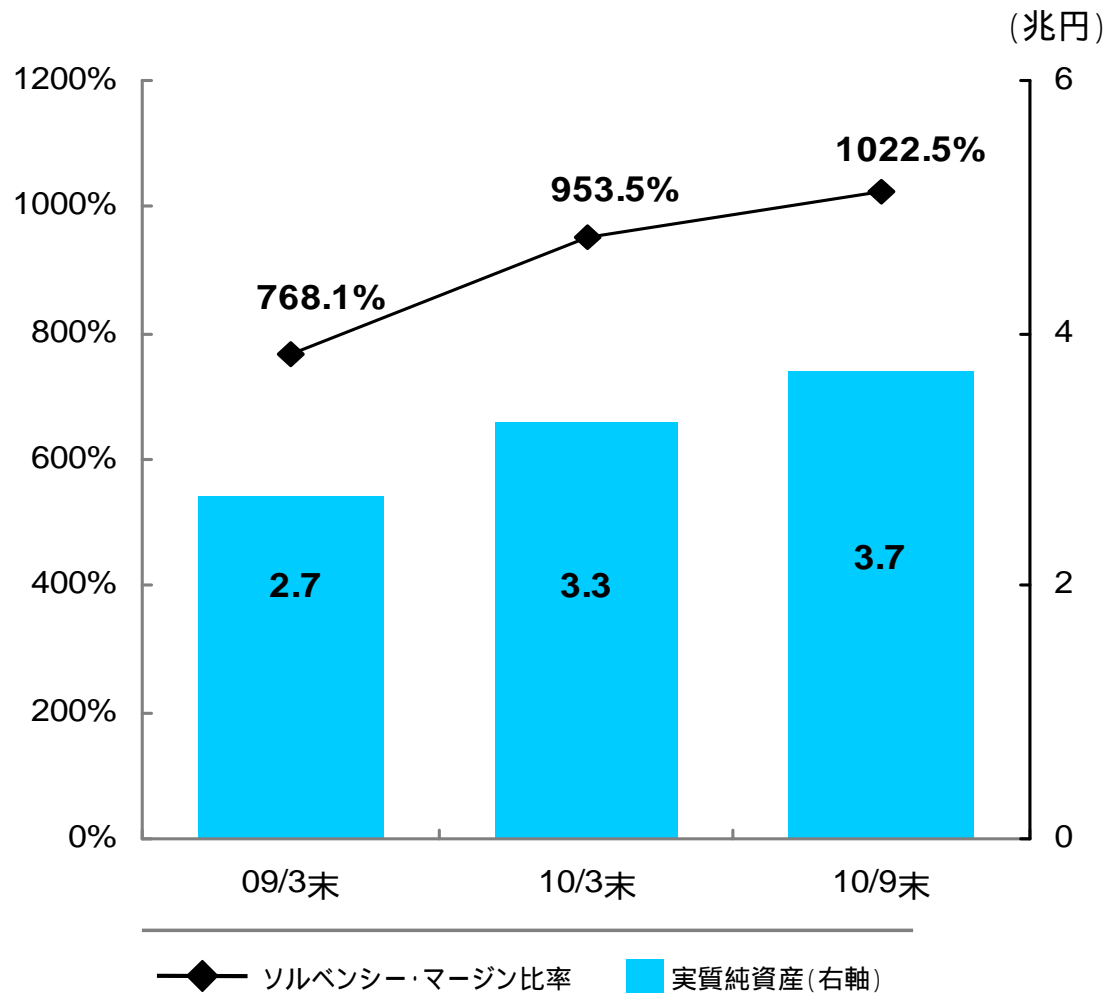
(2) 国内株式のうち時価のあるもの(子会社・関連会社株式、非上場国内株式は除く)

含み損益(一般勘定)⁽¹⁾

(億円)

	10/3末	10/9末	増減
有価証券	8,514	12,317	+3,802
国内債券	2,657	9,491	+6,834
国内株式	5,225	2,033	3,192
外国証券	598	703	+104
不動産	908	711	197
その他共計	9,420	13,016	+3,596

ソルベンシー・マージン比率および実質純資産額⁽¹⁾

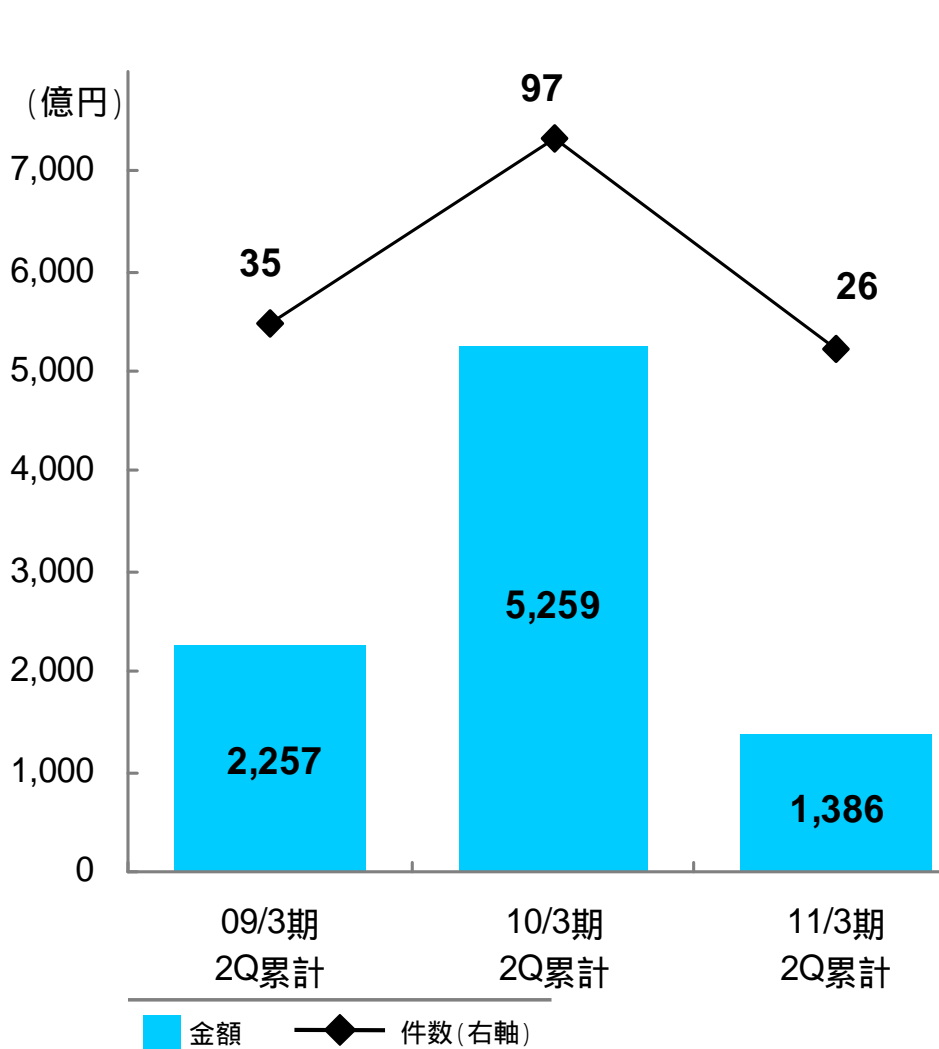


(1) 第一生命単体ベース

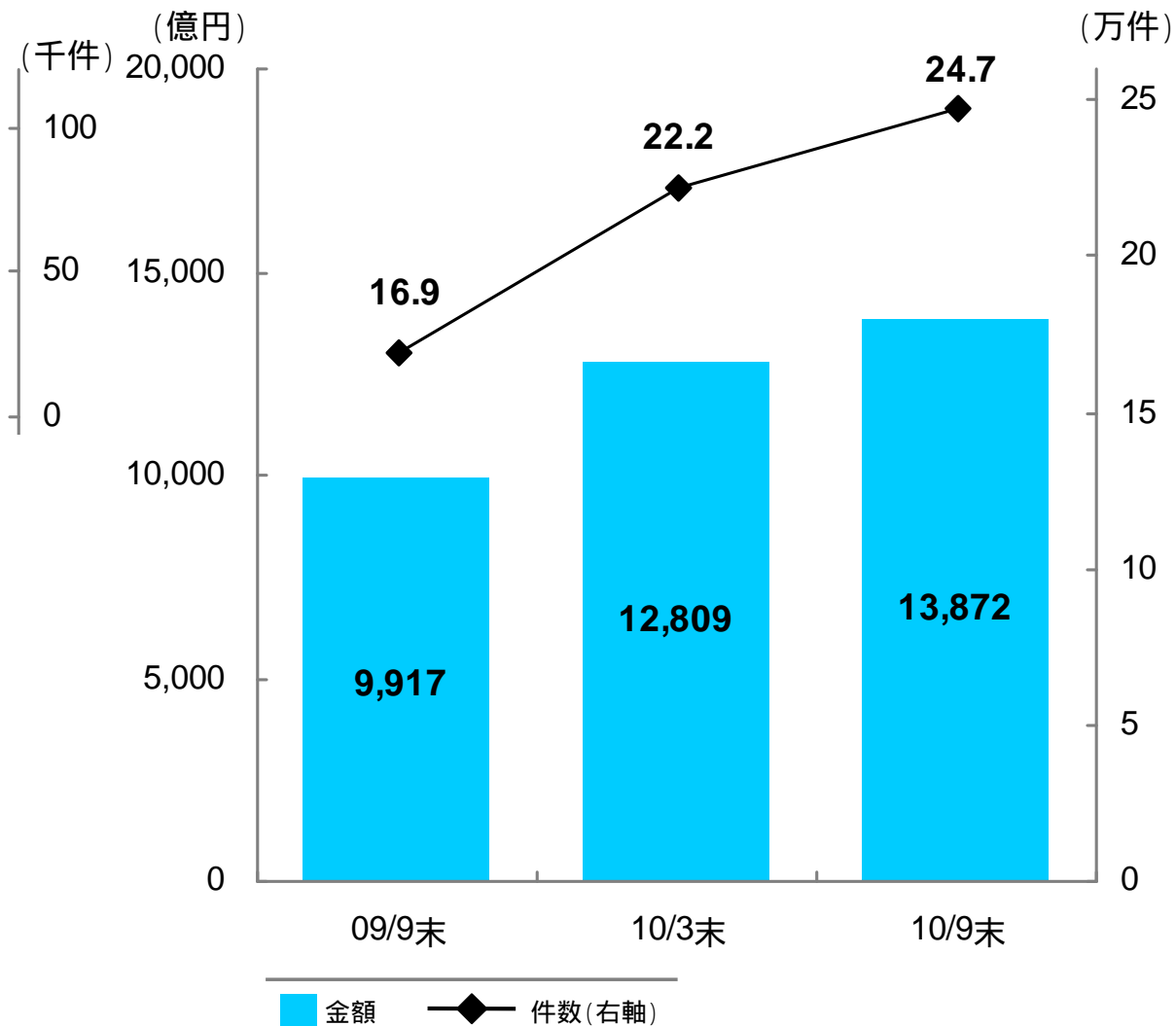
第一生命

第一フロンティア生命

新契約高



保有契約高



第一生命

第一フロンティア生命

収支の状況

	(億円)		<参考>
	10/3期 2Q累計	11/3期 2Q累計	
経常収益	6,070	1,666	11/3期 上期予想 1,700
うち保険料等収入	5,533	1,616	/
うち変額年金	4,883	1,236	
うち定額年金	358	147	
うち資産運用収益	533	50	
うち最低保証リスクに対するヘッジ利益(A)	-	39	
経常費用	6,100	1,731	
うち責任準備金等繰入額	5,624	1,081	
うち最低保証リスクに係る責任準備金繰入額(は戻入)(B)	246	184	
うち危険準備金繰入額(C)	237	10	
うち資産運用費用	36	187	
うち最低保証リスクに対するヘッジ損失(D)	34	-	
経常利益(は損失)	30	64	80
当期純利益(は損失)	30	61	80
当期純利益 - (A) + (B) + (C) + (D)	4	94	

2011年3月期業績予想(期初予想から変更なし)

(億円)

	10/3期	11/3期(予)	増減
経常収益	52,940	43,260	9,680
第一生命単体	43,315	39,720	3,595
第一フロンティア	9,613	3,500	6,113
経常利益	1,882	1,950	+67
第一生命単体	1,936	2,090	+153
第一フロンティア	83	160	76
当期純利益	556	500	56
第一生命単体	608	620	+11
第一フロンティア ⁽¹⁾	76	144	67
1株当たり配当金	-	1,600円	-

() 上記とは別に、組織変更時の定款附則第2条の規定に基づき2010年4月16日を基準日として、第1回株主配当(1株当たり1,000円)を実施しました。

(参考)

基礎利益 (第一生命単体)	3,301	3,000弱	-
------------------	-------	--------	---

第一生命

資本の再構築(期限付劣後借入の永久劣後借入化)

新ソルベンシー・マージン規制等を踏まえ、新SMRでの資本算入が可能な永久劣後借入(3,200億円)への大規模な再構築を実現

永久、かつ利払繰延条項等を付すことで、新SMR上の「特定負債性資本調達手段」の要件を満たすとともに、経済価値ベースでの資本水準向上にも寄与
株式の希薄化は伴わない設計とし、適正な資本コスト・資本構成を追求

条件変更前

条件変更後

残高合計 約3,595億円

残高合計 約3,965億円

ドル建劣後債 ⁽¹⁾	465億円
証券化劣後債	300億円
シ・ローン形式 期限付劣後借入	1,830億円
相対期限付劣後借入	1,000億円

ドル建劣後債 ⁽¹⁾	465億円
証券化劣後債	300億円
シ・ローン形式 永久劣後借入	2,200億円
相対永久劣後借入	1,000億円

条件変更 + 一部増額

全額条件変更

- ・永久劣後(5年経過後コール可能)
- ・5年経過後100bpステップアップ
- ・現SMR600%(新SMR300%)を下回る場合等に利払任意繰延
- ・繰延利息は累積

- ・同上、但し繰延利息は非累積

(1) 2010年3月末の為替レートで換算。

第一生命

ヨーロッパ・エンベディッド・バリュー

第一生命グループのEEV

(億円)

	10/3末	10/9末	増減
EEV	28,363	21,423	6,939
修正純資産 ⁽¹⁾	18,214	20,516	+2,301
保有契約価値 ⁽¹⁾	10,148	907	9,240

	10/3期 上半期	11/3期 上半期	増減	10/3期 年間
新契約価値	333	472	+138	1,189

第一生命単体のEEV

	10/3末	10/9末	増減
EEV	28,680	21,989	6,691
修正純資産	18,809	21,141	+2,332
保有契約価値	9,871	847	9,024

	10/3期 上半期	11/3期 上半期	増減	10/3期 年間
新契約価値	490	475	14	1,356

第一フロンティア生命のEEV

	10/3末	10/9末	増減
EEV	1,463	1,187	275
修正純資産 ⁽¹⁾	1,155	1,120	35
保有契約価値 ⁽¹⁾	307	67	240

	10/3期 上半期	11/3期 上半期	増減	10/3期 年間
新契約価値	173	3	+169	185

(1) 第一フロンティア生命は、新契約の初期コストの未回収リスクの軽減を目的として、修正共同保険式再保険等の再保険を活用していますが、当該再保険に係る調整を10/9末より行っています。本調整は修正共同保険式再保険等に係る将来の償却コスト相当額を保有契約価値から修正純資産へ振替えたものであり、EEVの総額には影響しません(第一フロンティア生命の修正純資産への影響額は466億円、保有契約価値への影響額は466億円です。グループベースでの影響額は出資比率に応じ、90.0%となります。)。10/3末についても、新基準で計算し直した比較可能なベースで掲載しています。

いちばん、人を考える会社になる。

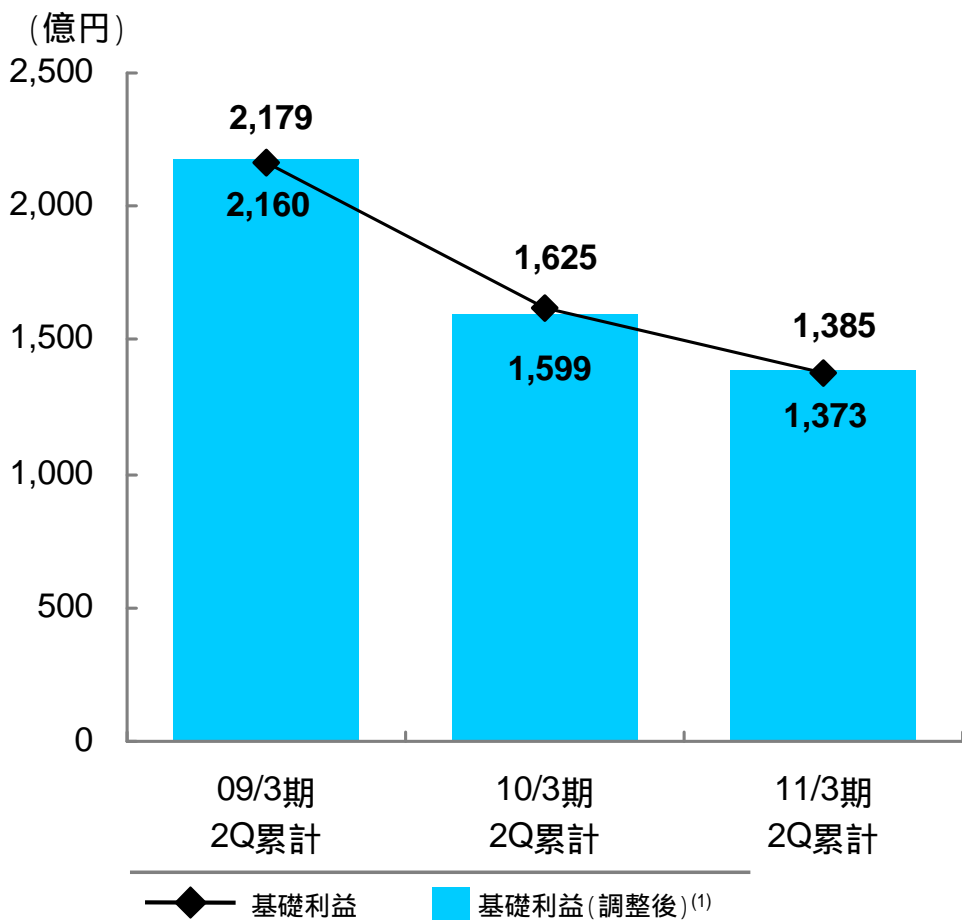
第一生命

参考データ

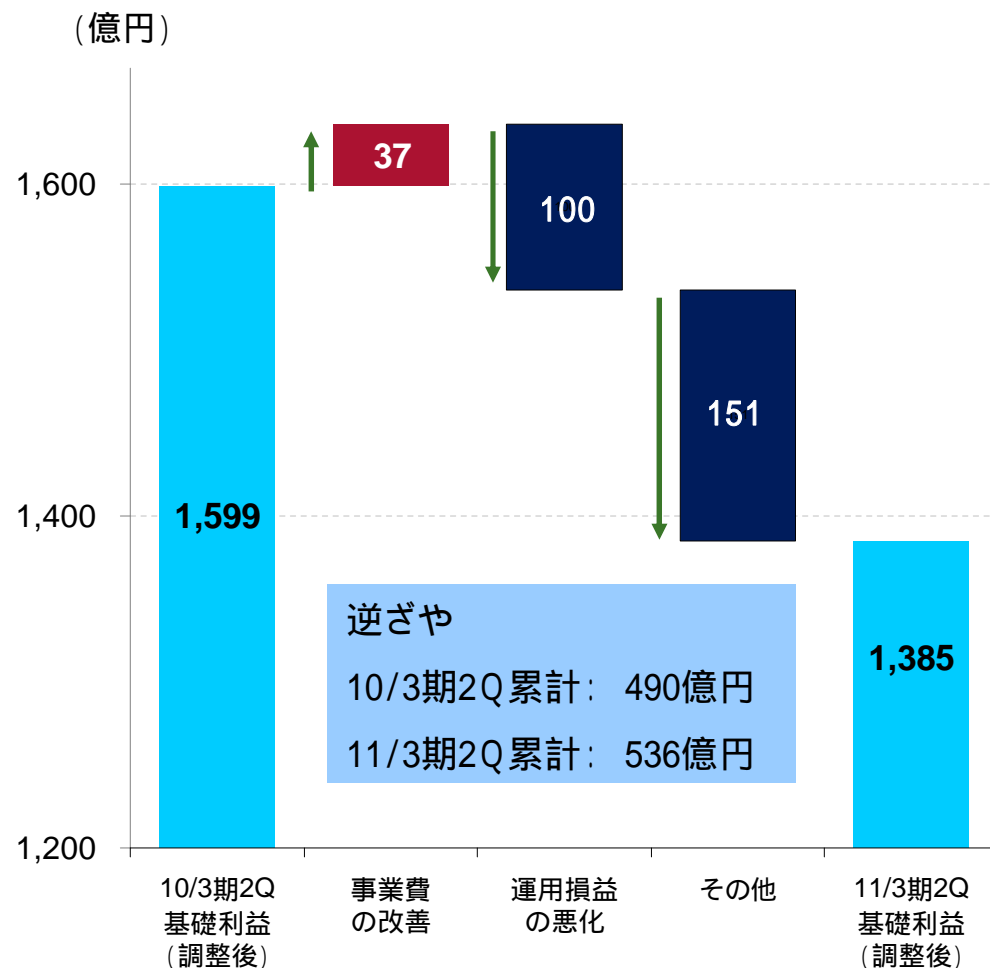
第一生命

第一生命(単体)基礎利益

基礎利益



基礎利益(調整後)の変動要因⁽¹⁾



(1) 基礎利益(調整後) = 基礎利益 + 変額年金の最低保証リスクに係る責任準備金繰入額

EEV感応度(10/3末時点)および10年国債金利の推移

EEV感応度(10/3末時点、第一生命グループ)

(億円)

前提条件	増減額
リスク・フリー・レート0.5%上昇	+3,459
保有契約価値	+9,660
修正純資産	6,200
リスク・フリー・レート0.5%低下	4,242
保有契約価値	10,087
修正純資産	+5,844
株式・不動産価値10%下落	3,208
保有契約価値	+84
修正純資産	3,292

10年国債金利の推移⁽¹⁾



(1) データ: Bloomberg

第一生命

金融市場への感応度(2010年9月末)

	感応度 ⁽¹⁾⁽²⁾	含み損益ゼロ水準 ⁽²⁾⁽³⁾
国内株式	日経平均株価 1,000円の変動で 2,700億円(2,700億円)の増減	日経平均株価 ¥8,500 (¥8,700)
国内債券	10年国債利回り 10bpの変動で 1,600億円(1,500億円)の増減	10年国債利回り 1.5% (1.6%)
外国証券	ドル/円 1円の変動で 190億円(180億円)の増減	ドル/円 \$1 = ¥91 (¥95)

(1) 各指標に対応する資産の時価総額の感応度。

(2) ()の数値は2010年3月末の水準

(3) 各指標に対応する資産の含み損益がゼロとなる水準。外国証券はドル円換算にて算出した、為替要因のみの含み損益がゼロになる水準。

第一生命

第一生命(単体)財務諸表

損益計算書(要約)⁽¹⁾

(億円)

	10/3期 2Q累計	11/3期 2Q累計	増減
経常収益	21,425	20,943	481
保険料等収入	13,948	15,017	+1,069
資産運用収益	6,030	4,563	1,466
うち利息・配当金等収入	3,463	3,383	80
うち有価証券売却益	1,181	1,016	164
うち金融派生商品収益	56	150	+93
うち特別勘定資産運用益	1,265	-	1,265
その他経常収益	1,446	1,362	83
経常費用	20,066	19,881	184
うち保険金等支払金	12,830	12,236	594
うち責任準備金等繰入額	1,706	1,635	70
うち資産運用費用	1,300	1,908	+608
うち有価証券売却損	652	618	33
うち特別勘定資産運用損	-	756	+756
うち事業費	2,140	2,102	37
経常利益	1,358	1,062	296
特別損益	134	105	+28
契約者配当準備金繰入額 ⁽¹⁾	462	412	50
税引前中間純利益 ⁽²⁾	762	544	217
法人税等合計	243	202	41
中間純利益 ⁽²⁾	518	341	176

貸借対照表(要約)

(億円)

	10/4始	10/9末	増減
資産の部合計	308,224	306,675	1,549
うち現預金・コール	3,976	3,613	362
うち買入金銭債権	2,898	3,092	+194
うち有価証券	239,879	241,242	+1,363
うち貸付金	38,343	37,646	697
うち有形固定資産	12,436	12,858	+422
うち繰延税金資産	3,376	3,487	+110
負債の部合計	298,221	296,904	1,317
うち保険契約準備金	278,962	280,338	+1,376
うち責任準備金	273,248	274,833	+1,585
うち危険準備金	5,270	5,360	+90
うち退職給付引当金	4,096	4,188	+92
うち価格変動準備金	1,154	1,224	+70
純資産の部合計	10,003	9,771	231
うち株主資本合計	6,046	6,300	+253
うち評価・換算差額等合計	3,956	3,470	485
うちその他有価証券評価差額金	4,611	4,146	465
うち土地再評価差額金	635	647	11

(1) 前年同期との比較を可能にするため、10/3期2Q累計については、11/3期2Q累計と同様に契約者配当準備金繰入額を計上したと仮定しています。具体的には、10/3期に計上した契約者配当引当金繰入額925億円に1/2を乗じた金額を、契約者配当準備金繰入額として記載しています。

(2) 第一生命は10/3期2Qにおいて相互会社でありましたが、中間純剰余に代えて中間純利益と記載しています。



第一フロンティア生命(単体)財務諸表

損益計算書(要約)

(億円)

	10/3期 2Q累計	11/3期 2Q累計	増減
経常収益	6,070	1,666	4,403
うち保険料等収入	5,533	1,616	3,917
うち資産運用収益	533	50	483
経常費用	6,100	1,731	4,369
うち保険金等支払金	142	396	+254
うち責任準備金等繰入額	5,624	1,081	4,543
うち資産運用費用	36	187	+151
うち事業費	264	61	203
経常損益	30	64	34
特別損益	0	2	+3
税引前中間純損益	30	61	31
法人税等合計	0	0	+0
中間純損益	30	61	31

貸借対照表(要約)

(億円)

	10/3末	10/9末	増減
資産の部合計	14,231	15,265	+1,033
うち現預金・コール	300	168	131
うち有価証券	13,135	14,115	+979
負債の部合計	13,057	14,137	+1,080
うち保険契約準備金	13,002	14,084	+1,081
うち責任準備金	12,996	14,076	+1,080
うち危険準備金	447	458	+10
純資産の部合計	1,174	1,127	46
うち株主資本合計	1,162	1,100	61
資本金	1,175	1,175	-
資本剰余金	675	675	-
利益剰余金	687	749	61

第一生命

本資料の問い合わせ先

第一生命保険株式会社
経営企画部 IR室
電話:050-3780-6930

免責事項

本プレゼンテーション資料の作成にあたり、第一生命保険株式会社(以下「当社」という。)は当社が入手可能なあらゆる情報の正確性や完全性に依拠し、それを前提としていますが、その正確性または完全性について、当社は何ら表明または保証するものではありません。本プレゼンテーション資料に記載された情報は、事前に通知することなく変更されることがあります。本プレゼンテーション資料およびその記載内容について、当社の書面による事前の同意なしに、第三者が公開または利用することはできません。

将来の業績に関して本プレゼンテーション資料に記載された記述は、将来予想に関する記述です。将来予想に関する記述には、これに限りませんが「信じる」、「予期する」、「計画」、「戦略」、「期待する」、「予想する」、「予測する」または「可能性」や将来の事業活動、業績、出来事や状況を説明するその他類似した表現を含みます。将来予想に関する記述は、現在入手可能な情報をもとにした当社の経営陣の判断に基づいています。そのため、これらの将来に関する記述は、様々なリスクや不確定要素に左右され、実際の業績は将来に関する記述に明示または黙示された予想とは大幅に異なる場合があります。したがって、将来予想に関する記述に依拠することのないようご注意ください。新たな情報、将来の出来事やその他の発見に照らして、将来予想に関する記述を変更または訂正する一切の義務を当社は負いません。